

2025 年 10 月 12 日

南ドイツの風物と観光

山田徹雄

南ドイツを対象とし、まず大都市であるミュンヘンについて、簡単に触れ、次いで保養地 (Feriengebiet) であるガルミッシュ・パルテンキルヘンについて、詳しく述べる。

ガルミッシュ・パルテンキルヘンは、私が 1975 年に初めて訪れ、魅了され、それ以来、今年に至るまで毎年、訪れていることをあらかじめ述べておく。

ドイツの経済・社会研究者は伝統的に東西格差を歴史的に検証するのが通例であった。しかし、私は 20 歳代でドイツ（正しくは西ドイツ）に暮らし、ドイツの大学において研究を進めるうちに、南北格差こそドイツ社会の空間的な構造を特徴づけるのではないかと考えるに至った。

南ドイツというとき、通例、バイエルン州とバーデン・ヴュルテンベルク州を想起する。私がここで取り上げるのが、そのうち、バイエルン州の南部（オーバーバイエルン県）である。

〈ドイツのなかのバイエルン州〉



〈バイエルン州のなかのオーバーバイエルン県〉



一般にドイツは、1871年に近代国家として統一され「ドイツ帝国」が成立したとされるが、ドイツ帝国は連邦制国家であった。例えば「ドイツ帝国憲法」の例外条項をみると。「前条はバイエルンには適用しない」という記述がみられる。

〈ドイツ帝国〉

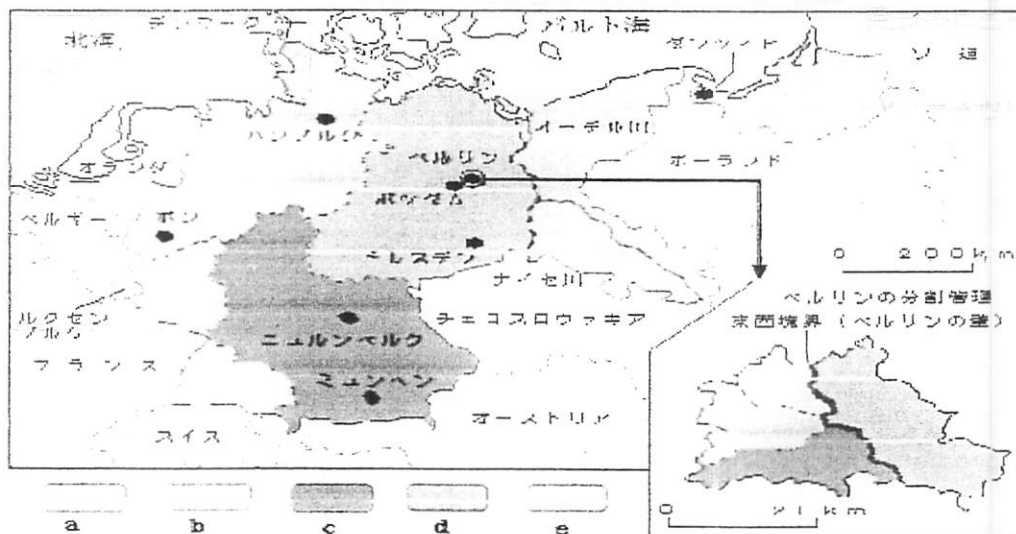


バイエルンは現在においても、ドイツ連邦共和国において独自の文化、伝統を保持している。例えば、ドイツ最大の政党であるキリスト教民主同盟(CDU)は、バイエルン州には議席を持たず、姉妹政党であるキリスト教社会同盟(CSU)が一貫してバイエルンの政界をリードしている。また、ドイツ全体ではプロテスタントが最大宗派であるが、バイエルンにおけるキリスト教最大宗派はカトリック(約67%)である。

19世紀のバイエルン経済に対する評価は、一般にネガティブである。「バイエルンの時計は他のどこよりもゆっくりと時間を刻んでいる」とその後進性を揶揄された。中世においてミュンヘンは、ニュルンベルク、アウクスブルク、レーゲンスブルクに次ぐ都市であった。バイエルン公国・バイエルン王国の首都であるにもかかわらず、宮廷都市であり、文化、芸術の中心であったが、経済の中心ではなかった。バイエルンにとって、工業化は「圧倒的に農業的・小営業的経済に浮かぶ島」以上のものではなく、アウクスブルクやニュルンベルクがそのような島の地位にあったと言われてきた。

後進地域バイエルンの評価が一変するのは、第二次大戦以降である。現代のミュンヘンとその周辺地域は、「ドイツ人にとってミュンヘンコンバレーである」と指摘され、第二次大戦後のバイエルンの発展は「農業国からハイテク州」への変化と表現されるに至った。

(ドイツ4カ国分割占領)



ミュンヘンに本社を構える BMW は、航空機関連のメーカーであった。第二次大戦後、連合国から航空機生産を停止され、自動車生産への転換を余儀なくされたことが世界的な自動車メーカーへの発展の礎となった。

電機機械メーカーであるシーメンス(シーメンス)は、ベルリンに本社を置いていたが、東西ドイツの分裂によって、ベルリンが孤立し、ミュンヘンに本社を移した。このことがまさにハイテク都市ミュンヘンを生むことになったのである。

現在のミュンヘンは、都会的な生活様式(städtische Lebensweise)と田舎の習慣(ländliche

Gewohnheiten)が併存し、後者の特徴である村祭り、民族衣装、酒場、訛りが健在である。バイエルン以外の人々に言わせると「ミュンヘンは村である」(München ist ein Dorf)のだ。ちなみに、ミュンヘンのオクトーバーフェストは、巨大化した村祭りの印象が強い。

ここで、ミュンヘンの画像を Power Point でいくつか紹介する。

バイエルン州の大都市ミュンヘンに続いて、農村地域であり、保養地であるガルミッシュ・パルテンキルヘン郡の3つの自治体、ガルミッシュ・パルテンキルヘン市、ミッテンヴァルト市、オーバーアマーガウ村を紹介する。以下においては、主に画像による紹介を中心とする。

ガルミッシュ・パルテンキルヘン市は、1936年に冬季オリンピックが開催されたことによって、当時、我が国にも紹介された。現在では、コンドミニアム風民宿であるフェーリエンヴォーヌンク、田舎風ホテル兼食堂、すなわち旅籠であるガストハウスなどの小規模な宿泊施設が完備する保養地である。壁面フレスコ画で有名な国境のまちミッテンヴァルトにおいては、建造物規制と広告規制によって景観が維持されていることを紹介する。また、オーバーアマーガウは、10年周期で行われるイエス・キリストの受難劇で有名である。イエス・キリストの受難を村人が演じる風習は、南ドイツから国境を越えてティロル州へと広がっている。それはカトリック地域のみに見られ、北ドイツのプロテスタント地域で見るのは困難である。

(参考文献) 拙著『ドイツ資本主義と観光』日本経済評論社、2015年